

管楽合奏は楽しい会？

No.47 “ロマン派とアメリカ人作曲家”
2016年11月3日(木・祝)14時開演 北とぴあ ペガサスホール

ブラームス (1833~1897)独

「ハイドンの主題に拠る変奏曲」
(Fl)信澤 (Ob)山本/一宮 (Cl)景山/庄子 (Fg)森川/尾作 (Hn)平本/井村

ロゼッティ (1750~1792)捷

「パルティータ へ長調」全4楽章
(Fl)岡添/信澤 (Ob)土屋/一宮 (Cl)兼氏/天沼 (Fg)阿部/山田 (Hn)中原/井村

--- Intermission ---

J.ムーケ (1867~1936)仏

「組曲」全3楽章
(Fl)信澤 (Ob)山本 (Cl)兼氏/天沼 (Fg)阿部/山田 (Hn)平本

バード (1856~1923)米

「組曲 二長調」全4楽章
(Fl)信澤/岡添 (Ob)土屋/山本 (Cl)景山/庄子 (Fg)山田/尾作 (Hn)市原/中原

出演者の簡単なプロフィール(楽器別50音順)

(Cond & Fg/解説)森川 一 (もりかわ はじめ)

法政大学入学後ファゴットを始め、菅原眸氏に師事。同校卒業後、東京藝大別科で三田平八郎氏に、その後元ハンブルク州立劇場奏者フリッツ・ヘンカー氏に師事する。フリーの奏者として活動し今日に至る。78年より毎年ソロ及び室内楽の演奏会を開催。他にオケのトレーナー、文筆など多岐に渡る活動を行う。「管楽合奏は楽しい会？」及び「フルスヴァルト合奏団」「森川室内楽」などを主宰。リード製作者としても高い評価を得ており「森川ファゴット&リード倶楽部」を運営している。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人代表及び「法政ファゴットの会」同人

(Fl & Cond)岡添 隆(おかぞえ たかし)

京都大学音楽部交響楽団でフルート奏者、学生指揮者として活躍する。フルートを佐々木伸浩氏、持田洋氏に、フラウト・トラヴェルソを森本薫氏に師事。現在はアンサンブル・メゾン、東京アマデウス管弦楽団で演奏活動中。普段は某メーカーからの共同研究員として東京大学本郷キャンパスで学生たちとともに研究生活を送っている。当会の指揮者も務める才人。

(Fl)信澤達也(のぶさわ たつや)

高校1年のとき隣席の友人の勧めでフルートを始め、磯辺庄平氏に師事。東京大学音楽部管弦楽団を経て卒業後は東京アマデウス管弦楽団で活動(2009~2014は団長)。鉄鋼系化学メーカーで鉄鋼系化学メーカーで永らく研究職を勤めたが、現在は特許関係の仕事に移った。終日机に向かう仕事なので、運動不足が気になる気になる昨今である。現在、職場のビッグバンドでも活動中(担当:サクソまたはトロンボーン)

(Ob)一宮悠子(いちみや ゆうこ)

中学からオーボエを始める。高校時代には鈴木繁、大学時代より渡辺潤世の各氏に師事。卒業後に地元仙台で就職したのを機に、念願のアマチュアオケに入団。以降もレッスンの度に高崎へ、また声が掛れば喜んで上京し演奏活動をする日々を送っていたが、現在は埼玉へ移住し週末の音楽活動を楽しんでいる。平日は医療専門職として勤務。

(Ob)土屋英晃(つちや ひであき)

東京都出身。14歳よりオーボエを始める。桐朋学園大学音楽学部、同卒業演奏会出演。同大研究科修了。第12回別府アルゲリッチ音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン2011にオーケストラメンバーとして出演。2009年、市川市文化振興財団第22回新人演奏家コンクール管楽器部門で優秀賞を受け新人演奏会に出演するなど同財団主催の演奏会に多数出演。コンセール・ヴィヴァン第29回新人オーディション合格し優秀賞を得る。オーボエを藤村理子、宮本文昭、嶋崎耕三、浦丈彦の各氏に、また室内楽を白尾彰、岡本正之の各氏に師事。洗足学園ニューフィルハーモニック管弦楽団、洗足学園音楽大学演奏要員を経て、現在はensemble le creuset、市川文化振興財団フレッシュアーティストバンクに所属。

(Ob)山本悦子(やまもと えつこ)

川崎出身。中学でオーボエを始め、専修大学フィルハーモニー管弦楽団を経て、2001~2013年までエルムの鐘交響楽団にて活動。2008年からハルモニア合奏団で管楽アンサンブルを始め、2014年から「管楽合奏は楽しい会？」に参加。オーケストラは合奏団ZEROに所属している。勤務先の病院では広報・図書室・院内コンサートなどの担当をしている。趣味は海釣りやサイクリングである。

(Cl)天沼隆彦(あまぬま たかひこ)

小学校4年からクラリネットを松代晃明氏に師事。東京大学音楽部管弦楽団、東京アマデウス管弦楽団を経て、現在はMETT管弦楽団団員。キャノンのエンジニアとしてスタートしたが、その後経営コンサルティングを経て様々なドイツの会社の日本支社長を務め、滞独は13年に渡る。現在はドイツの機械部品メーカーの日本代表。

(Cl)兼氏規雄(かねうじ のりお)

東京藝術大学附属高校を経て同大学卒業。ミュンヘン国立音楽大学留学。NHK洋楽オーディション合格。NHK「午後のリサイタル」等に出演。水戸芸術館「公募企画シリーズ」の第1回出演者に選出されリサイタルを開催。08年、東京オペラシティでのリサイタルについて、「音楽の友」誌上で絶賛される。水戸芸術館主催の「茨城の名手・名歌手たち」オーディション審査員、「茨城の演奏家による演奏会企画」選考委員、茨城県の新人演奏会出演オーディション審査員、新人賞選考委員。また、日本クラシック音楽コンクールの全国大会木管楽器部門審査員も務める。現在、上野学園大学音楽学部、茨城大学教育学部、大東文化大学文学部講師、水戸ソリスト代表。フルスヴァルト合奏団同人

(C1)景山賢嗣(かげやま けんじ)

東京大学音楽部管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団、ダングダーク管弦楽団に所属。これまでにクラリネットを平林邦男、兼氏規雄の両氏に師事。平日は大手情報通信企業にてシステムエンジニアとして勤務している。某コンビニATMの取引中継オンラインシステムを担当

(C1)庄子穂奈美(しょうじ ほなみ)

1990年生まれ、宮城県出身。中学時代の吹奏楽部にてクラリネットを始め、高校からレッスンに通い始める。クラリネットを千石進、堀川豊彦氏に、室内楽を太田茂に師事。昭和音楽大学短期大学部卒業。

(Fg)阿部憲一(あべ けんいち)

京都大学交響楽団で活躍する。ファゴットを日名弘見氏に師事。現在は東京アマデウス管弦楽団、アンサンブル・メゾンで演奏活動。令夫人はプロのヴァイオリン奏者、二人の令息はヴァイオリンとチェロを弾き、令嬢は藝大卒の声楽家と言う音楽一家の大黒柱。欧米、アジア各地へ海外出張の多い国際派ビジネスマンでもある。2010年5月の楽しい会？出演後アメリカに赴任するが、2012年春に帰国後当会に復帰し、オケ活動も再開する。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人

(Fg)尾作拓郎(おさく たくろう)

1984年生まれ、神奈川県出身。法政大学第二高等学校の吹奏楽部にてファゴットを始め、法政大学交響楽団を経て、同大学卒業後はシステムエンジニアとして大規模金融システムの開発をする傍ら週末に積極的に演奏活動を行っている。現在、狛江フィルハーモニー管弦楽団に所属。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人の一人で「法政ファゴットの会」同人

(Fg)山田祐理(やまだ ゆうり)

10歳くらいまでヴァイオリン、中学でユーフォニアム。法政二高吹奏楽部でファゴットを始め、その後法政大学交響楽団、ジュネス等で演奏。ファゴットを森川一氏に師事。現在は東京アマデウス管弦楽団、ナズドラヴィ・フィルハーモニーで演奏するほか、エキストラとして数多くのオケに出演。背にはコントラ、手にはファゴットを持ち東奔西走している。平日は大学教員(物理化学)。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人及び「法政ファゴットの会」同人

(Hn)市原秀紀(いちばら ひでき)

東京大学音楽部管弦楽団で活動し、その間故・伊藤泰世氏に師事。博士課程修了後紆余曲折を経て現在は高分子の研究開発で忙殺されつつ、日曜音楽家としてホルンを嗜む。現在は脇屋俊介氏、井上華氏に師事しながら東京アマデウス管弦楽団を中心に大編成のオーケストラで活動。それ以外にもアマデウスのメンバーと定期的に木管五重奏の演奏会を開いたり、ホルンアンサンブル“Strudel Hornisten”を主宰している。

(Hr)井村公予(いむら きみこ) 初参加!

京都大学交響楽団にてオーケストラと出会う。ホルンを小山亮氏、勝俣泰氏、野見山和子氏に師事。現在はチェンバー・フィルハーモニック東京、Adventurous Hornists Organizationなどで活動中。1X年前に就職を機に関西から上京。先月に転職したばかりで現在は光ファイバーの開発に携わっている。

(Hn)中原史生(なかはら ふみお)

京都大学交響楽団在籍中にホルンを小山亮氏に師事。大学院在学時に演奏活動から離れるも、就職を機に復帰。現在はアンサンブル・メゾン、茨城交響楽団で活動中。普段は海洋動物学が専門の大学教員をしており、唇の日焼け対策に苦労している。

(Hn)平本 彩(ひらもと あや)

埼玉県出身。12歳よりホルンを始める。桐朋学園大学、同大学研究科を修了し、現在は桐朋学園大学嘱託演奏員を務めている。在学中に京都国際音楽学生フェスティバル、ラ・フォル・ジュルネ 2014、音楽大学合同フェスティバル2015などに選抜され、2016年小澤征爾音楽塾オペラ・プロジェクトXVI喜歌劇「こうもり」に参加する。これまでにホルンを根岸伊智郎、猶井正幸、田場英子の各氏に、室内楽を佛坂咲千生、猶井正幸、岡本正之、亀井良信、鈴木良昭、嶋崎耕三の各氏に師事。

中々世間から評価されない管楽合奏の演奏会ですが、本日はご来場賜り御礼を申し上げます。

アメリカ人の作曲家と言うと、ガーシュイン、コープランドそれにバーンスタインなどを思い浮かべられる事でしょう。フォスターも欠かせないかも知れません。そして、ロマン派といえ、列挙されるのはドイツの音楽家ばかりでしょうか。フランス音楽が「近代」と言う時代に、ドイツではシューベルトから後期ロマン派のR. シュトラウスまで頑張っていたのですから無理はありません。もっともロマン派という区分けは文学よりも、案外曖昧なものですが、その主流だったのがドイツとオーストリアだった事は確かでしょう。

そして新大陸の演奏家や作曲家も、現在と同様に独逸を留学先として選んでいるのです。本日の主役、バードはプッチーニの2歳上でほぼ同じ時代を生きています。音楽はもちろん当初アメリカで勉強し、後にドイツに留学します。彼はドイツが甚く気に入ったので、晩年をドイツで過ごし骨を埋めました。自作の楽譜にもドイツ語で表題や指示を付けています。実は本国では余り知られていなかったとの事。ドイツ人になりたかったアメリカ人、だったからかも知れません。有名と言えずとも、この組曲は華麗さと力強さを備え、構成の見事な名品なのです。最後までお楽しみ頂ければ幸いです。

来年の春の演奏会はお馴染みの会場に戻ります。是非次回もお運び下さい。

2017年5月7日(日)14時開演 深川江戸資料館小劇場